

令和 2 年度(2020 年度)
障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会活動報告

1 地域づくり委員会の協議状況

活動項目	地域づくり委員会における協議等の内容
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> 1 就労支援について（平成 25 年度(2013 年度)～） 2 相談支援体制の充実・強化について（平成 26 年度(2014 年度)～） 3 障がい（児）者と地域住民の相互理解（令和 2 年度(2020 年度)～）
委員会の開催	<p>○ 第 1 回 令和 2 年(2020 年) 7 月 21 日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 説明事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 委員会の概要 (2) 委員欠員の補充について 2 報告・協議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和元年度(2019 年度)の活動報告 (2) 地域課題の設定について <p>※ 第 2 回 令和 2 年(2020 年) 11 月 27 日開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。</p> <p>○ 第 2 回 令和 3 年(2021 年) 2 月 25 日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 説明事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 地域課題及び第 1 回委員会の議事概要 2 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 地域課題解決に向けた取り組み実施について
その他	<p>○ 発達障がい関係パネル展 （令和 2 年(2020 年) 10 月 12 日～16 日 宗谷合同庁舎 1 階道民ギャラリー）</p>

2 地域課題の協議について

(1) 就労支援について（平成25年度(2013年度)～）

○ 第1回委員会における意見等

- ① 稚内市の住民が豊富町や幌延町の就労継続支援B型事業所を利用することが少なくない。他町のグループホームに入りながら生活を送る方もいる。
- ② 障がいのあるお子さんが成長して就労支援サービスを利用する時、サービスが揃っている都会に親も含めて転出する、お子さんだけで転出する場合がある。

○ 第2回委員会における意見等

- ① 息子を札幌の企業に就職させた時、何年か前から札幌に連れて行って、地下鉄の乗り方などを勉強させて困らないようにした。
就職等何かする時には、そういうところも詰めていかないと難しいと思う。
- ② 妻は自閉症スペクトラムで学習障がいも持っているが、2級ヘルパー資格を取り、今は枝幸町のグループホームで世話人の業務を何とかやりこなしている。
そういう発達障がいの人もいることを、皆さんに知っておいてほしいし、人手不足が言われてる中で、障がいのある方で、そういったケアに向いてる方はいると思う。なので、そういう方の力を引き出すサポートがあってもいいのではないか。

(2) 相談支援体制の充実・強化について（平成26年度(2014年度)～）

○ 第1回委員会における意見等

- ① どこに相談したらよいのかという窓口が大事。
- ② 義務教育～高校～就労の流れの中で支援が途切れがちになることが、全国的な課題となっているので、教育と福祉の連携について協議していきたい。
- ③ 町村で暮らす当事者が他市町村でサービスを受ける時、当事者のいる市町村と、当事者が利用する別の市町村の事業所との連携がなくて大変なこともあった。町村と、稚内市の事業所のネットワークが薄いと、なかなかサービスの提供に至らないケースがある。
- ④ 稚内市内の方ですら思うようにサービスを利用できないところがある中で、他の町村からのご依頼に応えきれない部分があるかと思う。
稚内市はまだ恵まれていると思うがこの地域は十分な基盤が整っているとは必ずしも言えない。
- ⑤ サービスがない、資源がないと言っているけど仕方がないので、知恵を出し合って当面できることをしていけたらと思う。
- ⑥ 社会資源の開発や改善も市町村の自立支援協議会の大きな役割の一つと思う。
稚内市の自立支援協議会は結構活動されているという話だが、そもそも自立支援協議会がない町村もある。
- ⑦ 障がい者が地元で利用したいサービスがなく他の市町村へ行く現状は、もう地元市町村だけでは解決できなくなっている、広域的な課題なのだろうということ。
市町村と自立支援協議会は、そういった現状を意識してほしい。
- ⑧ 宗谷管内は道北エリアだが、旭川市や名寄市の障がい者福祉の拠点に相談する、利用するのは難しい。管内に関係機関や事業所のネットワークがあった方が良い。
- ⑨ 自立支援協議会にも、進んでいるところはこうしていると、コーディネーターが情報提供して、形だけではなくちゃんと議論する場になっていただければいいと思う。
- ⑩ 教育と福祉が連携して、1人の人を見て関わっていかなければならないので、そこをうまく調整したり、連携できたらいいと思う。

○ 第2回委員会における意見等

- ① 障害者の日常及び社会生活を総合的に支援する法律があるのに、なぜこのような地域課題があるのか、そして、なぜ解決されないままなのか、解決しているものもあるけどスムーズに解決できないのか、考えた。
行政の福祉課に相談に行っても、制度やサービスの話はしてくれるけど、この日常生活を総合的に支援するという考えの話は、あまりないのではないかな。

(3) 障がい（児）者と地域住民の相互理解（令和2年度(2020年度)～）

○ 第1回委員会における意見等

① マスクが苦手、手洗いがうまくできない、街中で大声を上げてしまうといったコロナ感染対策をうまくできない障がい者への理解とサポートが今後課題になる。

② 地域住民や学校の先生、障がいや高齢者サービス事業所の方などに福祉に関する意見を聞いたところ、「障がい児者は、どこにどんな方がいるのか見えない。」という声が非常に多かったのが印象的だった。

そして、障がいをもつ方は、知って理解してほしいと積極的に発言する方と、学校や社会等で差別や偏見があるから知られたくないという方に、二極化されるという話も聞かれた。

○ 第2回委員会における意見等

① 学校以外で、親が障がいのある子を連れて歩いている姿はほとんど見ないが買い物とかで地域に出て顔を知ってもらうのが大事だと思う。

親の考えが変わると、周りの人の障がい者に対する見方も変わってくるのではないか。

② 車椅子で出歩くと、昔は本当に指さされて、いろいろと言われたけれども最近では変わった。車椅子であちこちに買い物に行くと、若い人が大丈夫ですかって声かけて来てくれる。その辺はかなり変わった。出て行ってわかってもらうことが一番大事ではないか。

③ 当事者家族は、オープンにする方もいれば、障がいであることを隠したいという方や、我が子に障がいがあることを認めない家族もいる。それは、将来への不安だったり、世間体を気にしたりだと思うが、まず、障がいと聞いて、良いイメージを持つ人がいないからではないかと思う。

実際、定型発達の子たちが普通にできることでも、発達に遅れのある子には普通が普通ではない、とても厳しい状況がある。

でも、特性を伸ばすことで、抜群に生かせる能力もあり、環境を整えば、高い能力を発揮する部分もある。もっと地域の皆さんに、発達障害について理解・意識して見守ってもらえるだけでも、共生社会という言葉がすごく身近な存在になるのではないかと思う。

④ 当委員会が全然知られていないという話だが、養護学校では、学期末等の時に当委員会についてのプリントが配布され先生から説明をされて、知る機会がたくさんあった。

普通校に子どもが通っている保護者は知る機会がないため、当委員会のことを知らない方々がたくさんいる。障がいを持っている子どもの親が当委員会のことを知らないということが、先に進まない原因だと思う。

(4) その他 地域課題の解決に向けた取り組み実施案について

○ 第2回委員会における意見等

- ① 取り組み実施案には概ね賛成。
- ② 取り組み実施案は(令和3年度に)まとめて実施してはどうか。
- ③ ポスターやパネル展示だけでは素通りされがち。
- ④ 地域づくり委員会については養護学校で説明しているが、障がい児の保護者にあまり知られていない。普通学級にいる子どもの保護者には、なおさら知られていない。
- ⑤ 直接の販売等以外に、web上で取り組みを実施してはどうか。
- ⑥ ホームページでの広報もよいと思う。
- ⑦ QRコードやフェイスブックを活用してはどうか。